



一宮市三岸節子記念美術館 特別展「貝殻旅行—三岸好太郎・節子展—」

彗星の如く画壇に現れ、独自のロマンティックな世界を描いた夭折の天才画家・三岸好太郎（1903-1934／北海道札幌市生まれ）。女性洋画家の先駆的存在として苦難の道を切り拓いた文化功労者・三岸節子（1905-1999／愛知県一宮市生まれ）。ともに故郷に名を冠した公立美術館が立つ、唯一無二の画家夫婦です。この日本洋画史上もっとも有名な画家夫婦の出会いから 100 年を迎えることを記念し、「貝殻旅行—三岸好太郎・節子展—」を開催します。

1922 年の二人の出会いから 1924 年の結婚、1934 年の“貝殻旅行”と称した夫婦水入らずの旅と、直後の好太郎の死。その後の節子の女性洋画家としての茨の道も辿りながら、二人が築いた鮮烈なる絵画世界を紹介します。夫婦の傑作が一堂に会す全国巡回展は 1992 年以來じつに 30 年ぶり、節子が亡くなってからは初となります。それぞれの最晩年の代表作である好太郎の<蝶と貝殻>、節子の<さくら>、さらには互いの絶筆までもが共演する、歴史的な展覧会です。

愛し、時に憎み、追慕しながら唯一無二の画家夫婦となっていく波瀾万丈の二人の“旅路”を、どうぞご覧ください。

貝殻旅行



1934 年、好太郎は新アトリエ建築の夢に取り憑かれていました。資金の奔走に明け暮れるなか、《のんびり貝》が化粧品大手の社長に売れ、好太郎は上機嫌になり、節子を二人だけの旅に誘いました。6 月、「貝殻旅行」と称して大阪、奈良、京都、神戸をめぐるのですが、その帰途、節子だけを東京に帰し、一人名古屋にとどまりました。そこで好太郎は持病の胃潰瘍が悪化。吐血と心臓発作で 7 月 1 日、蝶のように飛び立ちました。享年 31 歳。

会 期	令和 4(2022)年 2 月 19 日(土)～4 月 10 日(日) 51 日 (開館 43 日) ※2 月 19 日(土)は正午から一般公開
開館時間	午前 9 時～午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分)
休 館 日	毎週月曜日 (3 月 21 日(月祝)は開館)、2 月 24 日(木)、3 月 22 日(火)
主 催	一宮市三岸節子記念美術館、中日新聞社、東海テレビ放送
協 力	株式会社 北菓楼
企画協力	産経新聞社
観 覧 料	一般 1000／高大生 500／中学生以下無料 ※コレクション展 (常設展) 観覧料を含む ※20 名以上の団体は 2 割引 ※一宮市内の満 65 歳以上で住所・年齢の確認ができる公的機関発行の証明書等を提示された方、身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳 (ミライロ ID 可) を持参の方 (付添人 1 人を含む) は無料
巡回情報	1. 北海道立三岸好太郎美術館 令和 3(2021)年 6 月 26 日(土)～9 月 1 日(水) 2. 富山県／砺波市美術館 令和 3(2021)年 9 月 13 日(土)～11 月 7 日(日) 3. 兵庫県／神戸市立小磯記念美術館 令和 3(2021)年 11 月 20 日(土)～令和 4(2022)年 2 月 13 日(日) 4. 愛知県／一宮市三岸節子記念美術館 令和 4(2022)年 2 月 19 日(土)～4 月 10 日(日)
展示作品	三岸好太郎作品 46 点 三岸節子作品 37 点 資料 (写真、愛用品など)

関連行事

- 内覧会** ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開会セレモニーは実施しません
日 時 2月19日(土) 10:00~12:00

●**オープニングコンサート**

好太郎との死別後、1954年に初めて憧れのヨーロッパに渡った節子。ルーブル美術館で古代エジプトや古代中国の原始美術がもつ素朴で力強い造形美を目の当たりにし、自身が日本人であることの民族性に目覚め、その後の作風を確立させました。

節子が「人類の最も優れた遺産」と絶賛したアフリカ原始美術を音楽によって体感いただきつつ、「貝殻旅行」後の節子の旅路に思いを馳せてください。

日 時 2月19日(土) 11:00~ (開場 10:00)

出 演 AJATE (アジャテ)

「西アフリカの大地で見たお祭り。沸き上がる熱量とリズム。日本に帰った私はたまたま見た阿波おどりにアフリカの大地を見た。遠く離れた国、もしかしたら原始的な昔から人類の沸き上がる思いは同じかもしれない。世界に幾千とあるリズムは1つなのかもしれない。」そんな思いで結成された10人編成のグループ。

特別出演 サカイダコージ

一宮市出身。18歳でタップに出会い26歳で東京へ。北野武監督映画「座頭市」タップシーン他数々の舞台を経験。2015年より一宮市に戻りスタジオ arttap room 81 を開業、東海地方を軸としたタップダンスの普及に努めている。



会 場 1F エントランスロビー
観覧料 <一般> 2000円 (「貝殻旅行」観覧料を含む)
※内覧会招待状持参者は無料
定 員 <一般> 30名 + 内覧会招待状持参者
申込み <一般> 2/1(火)より電話にて受付

●**ミュージアムパフォーマンス「道化とアコーディオンの調べ」**

三岸好太郎の代表シリーズ<道化>をイメージし、アコーディオンの調べにのせて道化師が無言劇を披露します。

日 時 3月27日(日) ①11:00~ ②14:00~ (各回 20分程度)

出 演 LONTO (ラストラーダカンパニー)

道化師。パントマイミスト。国内外で道化を学び言葉を話さない沈黙の道化師を貫く。アメリカ道化師大会で個人、団体共に金賞。海外でも評価が高く招待出演や受賞多数。国内でも厚生労働省児童福祉文化賞、文化財の作品を排出。人形劇やダンスなど他ジャンルへの出演や指導も多く、舞台芸術を追求すべく活動中。パントマイムとサーカスの舞台上で全国を巡演。

アコーディオン かいだむつみ

名古屋芸術大学ピアノ科卒業後、「自然の中で自分の楽器を演奏したい」という思いからアコーディオンを弾き始める。2014年よりアコーディオン奏者 Angelo Aquilini 氏に師事。ジャンルに捉われず、独自のスタイルで進化し続けている。現在はサポートミュージシャン、バンド、ソロ演奏家として活動。



会 場 2F 「貝殻旅行」展示室
観覧料 無料 (要「貝殻旅行」観覧券)
定 員 50名 (先着)
申込み 不要 (当日直接会場)
※当日の状況により入場制限をかける場合があります。予めご了承ください。



三岸好太郎《少年道化》
1929年 東京国立近代美術館蔵
2

●講演会「二人が出会って100年」

日 時 2月26日(土) 14:00～ (開場 13:30)
 講 師 三岸太郎氏 (三岸好太郎・節子孫、高輪画廊代表)
 会 場 1F 講義室
 定 員 60名 (先着)
 観覧無料/事前申込不要 (当日直接会場)

●好太郎美術館×節子美術館 学芸員クロストーク

日 時 3月20日(日) 14:00～ (開場 13:30)
 ゲスト 北海道立三岸好太郎美術館 副館長 五十嵐聡美氏
 会 場 1F 講義室
 定 員 50名 (先着)
 観覧無料、事前申込不要 (当日直接会場)

●ワークショップ 貝殻旅行×おばけのマール

「モーニングもういっかい！ーものがたりのつづきを描こうー」
 「貝殻旅行」を鑑賞したあと絵本『おばけのマールとモーニングのあとで』の読み聞かせを行い、絵本のつづきを自由に発想し絵画作品を描きます。
 日 時 3月6日(日) 14:00～15:30
 対 象 年少～小学6年生 (小学3年生以下は保護者同伴) 12名 (抽選)
 会 場 1F 講義室
 参加費 300円
 申込み 2/15(火)までに電話・メール・ハガキにて受付

●学芸員によるギャラリートーク

日 時 2月27日(日)、4月2日(土) 各日 14:00～
 会 場 2F「貝殻旅行」展示室
 参加無料 (要「貝殻旅行」観覧券)、事前申込不要 (当日直接会場)

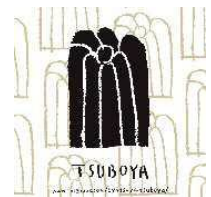
●貝殻旅行×限定スイーツ

○【毎週土曜】貝殻旅行×尾西金蝶堂 コラボ和菓子「花ト蝶」

好太郎の<蝶>をイメージした羽二重餅と、節子の<さくら>をイメージした桜餅のセットを、当館喫茶コーナーで限定販売
 日 時 会期中の毎週土曜日 10:00～
 価 格 1セット 500円(税込)
 販売数 各日 10セット (売切れ次第終了)

○【2/27・3/20】貝殻旅行×TSUBOYA コラボカヌレ

好太郎と節子をイメージしたカヌレを、当館喫茶コーナーで限定販売
 日 時 2月27日(日)、3月20日(日) 10:00～
 価 格 好太郎・節子味 各 320円(税込)、バニラ味 280円(税込)
 販売数 各日 300個 (売切れ次第終了)



○【毎週火・水曜】北菓楼 バウムクーヘン「妖精の森」プレゼント

好太郎の故郷・北海道の北菓楼から、バウムクーヘン (個包装) をプレゼント
 日 時 会期中の毎週火・水曜日 9:00～
 提供数 各日 50個 (先着)

○【毎週金曜】《春の野辺》キャンディプレゼント

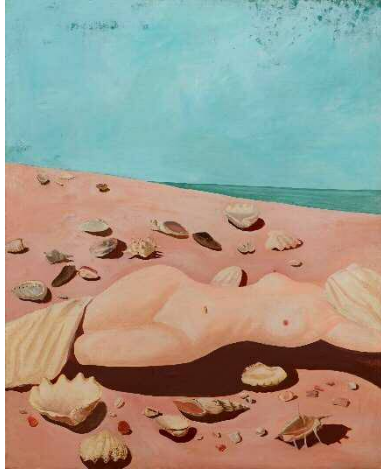
夫婦 (カップル) で来館されたお客様に、好太郎が節子へのプロポーズを描いた幻の作品《春の野辺》を再現したキャンディをプレゼント
 日 時 会期中の毎週金曜日 9:00～
 提供数 各日 10袋 (先着)



三岸好太郎 《春の野辺》
1924年 (所在不明)

広報素材

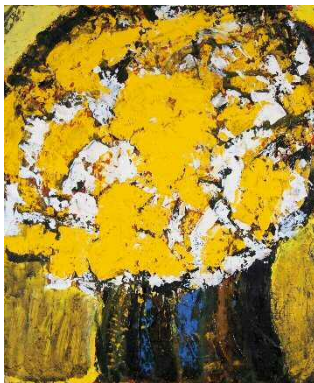
高解像度の画像を提供いたします。下記担当までお問い合わせください。



<三岸好太郎作品>
上段左《のんびり貝》1934年 北海道立三岸好太郎美術館蔵
上段右《女の顔(絶筆)》1934年 北海道立三岸好太郎美術館蔵
左 《海と射光》1934年 福岡市美術館蔵



<三岸節子作品>
右 《静物(金魚)》1950年 東京国立近代美術館蔵
下段左《花(絶筆)》1999年 高輪画廊蔵
下段中《花・果実》1934年※
下段右《さいたさいたさくらがさいた》1998年※
※一宮市三岸節子記念美術館蔵 いずれも©MIGISHI



同時開催

コレクション展（常設展）「素描画の魅力」

節子は旺盛な制作意欲から、常に傍らにスケッチブックを置き、気に入った対象があればすぐに素描に取り掛かっていました。一本の線に民族性までも表現しようと描いた素描作品は、それ自身が一つの作品として成立しています。借用作品を含むクレパス、水彩画、デッサン等を展覧し、節子の素描作品の魅力に迫ります。

会 期 令和4(2022)年2月19日(土)~4月10日(日)

担当者

一宮市三岸節子記念美術館 課長補佐(学芸員)長岡昌夫、学芸員 野田路子
〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南 3147-1
TEL 0586-63-2892(市内線 7780) FAX 0586-63-2893
E-mail migishi@city.ichinomiya.lg.jp